

第40回鹿屋市美術展 講評（一部作品のみ）

実行委員長あいさつ

厳寒の季節、本展には、例年に増して多くの力作が出品（一般部門166点、委嘱作家22点）されております。出品して下さった皆様、まことにありがとうございます。観覧される皆様におかれましては、制作者の魂こもる芸術表現を、どうぞ心ゆくまで味わって頂きますよう祈念申し上げますとともに、この講評が作品の深みを感じるための手助けになればと考えています。

特別賞を受賞された皆様、誠におめでとうございます。今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、表彰式を開催しないことから、本来は表彰式で聴けるはずの総評や講評を紙面で見られるようにいたしました。一部の作品のみとなりますが、講評を記しお祝いの言葉といたします。

鹿屋市美術展実行委員会 実行委員長 志村 正子

第40回記念大賞受賞者あいさつ



『 暁へ 』

この度は第40回記念大賞をいただき、誠にありがとうございます。40回の節目を迎えられました歴史ある本展、また7年間勤務しました思い出の地鹿屋での受賞に感激もひとしおです。

これまで油彩画制作において長い間テーマにしている「顔」の形体と色彩の構成で現代の世相を切り取る作風を本作品でも追及しました。

『暁へ』のタイトルが示すように、コロナ禍を始め様々な不安に駆られる現況に、「明けない夜はない」という祈りにも似た思いでまっすぐと未来を見つめる二人の表情を赤、紫、青を主体にした色彩で平和で公正な世界、それを実現していく行動力を力強く表現したつもりです。

今回の受賞を励みに一層目指すテーマを追及していく所存です。

この度は、誠にありがとうございました。

第40回記念大賞 立元 真一郎

全体総評

第40回の節目となる鹿屋市美術展は出品点数が前回より増えた。作品は大変レベルが高く、特に上位入賞作品の審査は長時間となった。今回の40回記念大賞は立元真一郎「暁へ」(洋画)に決まった。顔を色彩豊かに画面中央に配し、混沌とした不安、人物の内面を迫及した絵になった。又、鹿屋市長賞の中村吉文「ファンタジー」(写真)は、南国の植物が複雑に重なる空間を切り取った、暖色の中に複雑な色彩が魅力ある写真となった。委嘱作家賞の3作品をはじめ委嘱作家はそれぞれ自己を迫及をされている。上位入賞者や今回、点数が多かった写真、洋画作品は大変充実していたと感じた。

どの分野も同様に作品づくりは難しく奥が深いものです。モチーフとの出会い、自分らしさを軸に制作の時間に限らず、日々創造の時間、制作の喜びを大切にしながら続けていきたい。

コロナ禍で芸術活動が制限される中、第40回鹿屋市美術展が開催されたことは大変意義深いことであり、併せて本展を支えてこられた永年出品功労者、出品者、関係者の皆様に敬意を表する次第でございます。

第40回鹿屋市美術展 審査委員長 祝迫 正豊

個別講評

●洋画

賞名・「作品名」	氏名	講評
第40回記念大賞 「暁へ」	立元 真一郎	赤色を中心にまとめた人物の顔を色彩構成的に描き上げ、僅かにある補色の緑色が様々な人間模様を感じさせる秀作である。
鹿屋市議会議長賞 「女神の祈り」	西留 利義	三色の彩られた手のひらに、人々が願うであろう普遍的要素が織り込まれ観る側を考えさせ作品に仕上がっている。
まちづくり鹿屋賞 「玉ねぎ」	橋口 淑子	いつものように朝日のあたる土間に置いた採りたての玉ねぎ、何気なく描いた作者の美意識が感じられる作品である。
鹿屋商工会議所会頭賞 「寧日」	山河 美智郎	人物とクッションと椅子、背景にある真ん中を横切る黒い巾木、その交差する縦横の線が画面を大きく見せている。
鹿屋肝属法人会賞 「心が迷子になりそうな時」	小迫 妙子	無彩色に彩られた四角い画面の中に、緑色を感じさせる漠とした色が暗示するものは何か。私たちは考えさせられる。

●日本画

賞名・「作品名」	氏名	講評
大隅美術協会賞 「毛嵐」	満留 ミエ子	水面から立ち上がる幻想的な様子が描かれている。画面からは鎮静的で冷たい空気感、穏やかな生命感を感じる。

●工芸

賞名・「作品名」	氏名	講評
南日本新聞社賞 「天まで届け」	新原 久美子	陶芸の作品で、造形美に重きを置いた作品で新しい作風に挑戦していると感じました。この方向で進んでほしいと思います。
委嘱作家賞 「ハンターズムーン」	岩田 鈴子	題名のごとく、秋の月をイメージした作品だと感じました。綺麗な曲面に仕上げたフォルム、幾重にも着色をされ計算された色彩や使う着色材料により遠近感をも計算をして演出しているなど、どこを取っても確かな技術、センスが光る作品です。

●写真

賞名・「作品名」	氏名	講評
鹿屋市長賞 「ファンタジー」	中村 吉文	田中一村的発想で押し花風に仕上げられて新鮮さを感じ、草木の中を昆虫の目線で見ているかのようで面白いです。暖色系でまとめたところも評価したいです。
鹿屋市教育委員会賞 「静寂の銀河」	中野 里美	写真部門の最高作品と僅差でした、非常にスケールとロマンが相まって完成されていました。ただプリント仕上げで難があった。
鹿屋ライオンズクラブ賞 「扉の艶」	井手 孝一	一言で言うと大胆な構図が、功を奏しています 壁に貼られた名刺？も良いアクセントになっており、ハイソックスをはいた足、肩から上を切り取った事で、見る人にいろいろな事を想像させます。
MBC南日本放送賞 「Dream Marin」	山崎 淳子	海と幼児が宙に浮いてるような錯覚を感じる、ブルーなトーンが更にイメージを高めている。

賞名・「作品名」	氏名	講評
池田病院賞 「静寂」	松元 涼子	夏の思い出か玄関板の間に蟬の抜け殻を配し、過ぎ去りし夏を表現している

●手工芸

賞名・「作品名」	氏名	講評
鹿屋西ロータリークラブ賞 「艶やかに」	田尾 洋子	月下美人の花言葉「艶やかな美人」というその言葉通り、この花の持つしなやかで繊細な雰囲気をも最大限に活かされた作品だと思います。パステルで描かれたバックの動きも効果的です。構図に関しては疎密感があると更に魅力的になるのではと感じました。
大隅ハンドクラフト協会賞 「裂織り 友・還暦の衣」	川添 順子	江戸時代から伝わる裂織の技術をずっと守り続けていらっしゃるひたむきな姿勢に頭が下がる思いです。還暦のお祝いという事で経糸も緯糸も赤一色で織られたのだと思いますが、その中にアクセントカラーを入れられたら更に赤色が強調され、奥深い作品になるのではと感じました。
第40回記念賞 「はばたき」	藤元 智美	「一筆書き」の作品に出会ったのは今回が初めてで、その不思議な世界について見入ってしまいました。小さな作品でしたが出品された3点の中でピリリとした色使いに目を惹かれ、この「はばたき」を選ばせて頂きました。これからも「一筆書き」の魅力を表現してってください。
奨励賞 「弟へ古希の祝い いつも ありがとう」	渡辺 まさ子	樹脂粘土を使って本物の花と見紛う程、細部に至るまで丁寧に表現されていて感動致しました。生の花と違い水やりも不要、枯れる心配も無いその特長を活かし、空間に浮かべたりしても面白いかもしれませんね。是非これからも色々とチャレンジしてみてください。